

文明開化の先覚者、

医師「原善十郎」先生のこと

田中の墓地に明治34年(1901年)に47歳の若さで亡くなられた、医師「原 善十郎」先生の墓がある。善十郎先生は、この町内の生まれで原善連さんの祖父にあたる方である。

善十郎先生は、明治初年(1868年)にはまだ13歳であった。

医学を学ばれたのは数年後のことであろうが、就学されたところは大阪であったそうである。この時期、西洋医学を取り入れた医学校は数も少なかったにちがいない。大阪には緒方洪庵(1810~1863)の経営する、かの有名な「適塾」のあったところである。そして、洪庵の息子の緒方惟準(おがたこれよし)が明治2年東京の病院長から大阪の病院長になり、オランダ医師ボードインが教師に任命されたことが本にも書かれているので、医師の養成所(医学校)が併設されていたと思われるし、善十郎先生もそこで学ばれたのではないかと推察するのである。

とにかく、明治の初期、この片田舎であった田中野田に西洋医学を身につけられたお医者が開業されたのである。何というすばらしいことであつたらう。地区民にとっては大きな誇りを感じたにちがいない。

この町内で現在94歳になられる大森譲二さんの話ですと、もちろん譲二さんがこどもの頃のことであるが、当事善十郎先生が遠方へ往診されるときは大八車に乗せられて行かれたと言うことである。今の私には想像できないことだった。明治2年に人力車が発明され、その後急速に普及したようなので、後には人力車を利用されたことであろう。その人力車とて後年のようなゴムタイヤの車輪ではなかったろうから乗り心地は大八車と大して違わなかったと思われる。また、酒が大変好きだったそうだから、善十郎先生は豪放磊落で、こだわりのない人柄であつたと信じたい。頼まれれば気軽に往診してもらえた先生であつたと推量させてもらうのである。それにしても、善十郎先生は年若くして世を去っておられる。なんということであろう。

先生に啓発されてか、先生の没後、先生の本家筋にあたる原 正雄先生(原 渥美氏ご尊父)ご兄弟、原 正雄先生のご子息原 渥美氏のご子息など続々と善十郎先生の跡を継いでお医者さんになっておられるのである。

原 正雄先生もこの地で開業せられていた。おかげで私達も引き続いて近代医学の恩恵を享受できたのである。郷土における文明開化の先駆者であつた善十郎先生に改めて「ありがとうございました」と墓前に手を合わさなければならないと思うわけである。